# 板橋 凸凹地形散歩

## まちを歩いて板橋のルーツを探る

アスファルトに覆われ、建物で埋め尽くされて均一に広がる東京。
でも本当は、台地に川が刻んだ谷あり窪地あり。
崖も河川の氾濫原もある、悠久の大地に載ったまちなのだ。
特に板橋は、武蔵野台地の縁が舞台。台地と崖と、
荒川がつくった低地といったダイナミックな地形にできたまちだ。
地図を持って歩いてみよう。凸凹の地形を上り下りするうち、谷間や崖、窪地が見えてくる。
元の地形が見えたとき、板橋の歴史とルーツが浮かび上がる。
今回は、各地の凸凹地形、スリバチ状の谷間や窪地を探し求めて歩く「東京スリバチ学会」の
皆川典久会長が、板橋の歴史が始まった舞台、起伏の激しい武蔵野台地縁エリアを案内する。

text and photo | 皆川典久

みながわ・のりひさ | 東京スリバチ学会会長。1963年、群馬県生まれ。2003年に東京スリバチ学会を設立。以来、全国各地でフィールドワークと記録を続けている。合言葉は「下を向いて歩こう」。著書に『凸凹を楽しむ東京「スリバチ」地形散歩』シリーズ(洋泉社)、『東京スリバチ地形入門』(共著、イースト・プレス)など。